

Weekly Bulletin

2018-2019



RI会長
ラリー・ラシン



BE THE INSPIRATION



会長
杉田至弘

静岡東ロータリークラブ

会長／杉田至弘 幹事／川口尚宜

事務局／静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場／ホテルアソシア静岡 例会日／毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>

第 2881 回例会

平成 30 年 11 月 29 日 天候 晴

- 《司 会》 川口 尚宜 君
- 《合 唱》 「静岡東ロータリー」
- 《BGM》 「Babbo leo」 他 GIPSY KINGS
- 《ゲスト》 ロータリー財団委員長 曾根真人 様
富士山吉原 (RC)
- 《ビジター》 なし

《本日のお祝い》

お誕生日

- 12月3日 長島 秀親 君
- 12月5日 長田 きみの君
- 12月5日 林田 尚翁 君

結婚記念日

- 11月30日 宮崎 貴久 君

《ソングリーダー》

いよいよ、宝くじの発売が始まりました。先日応援のアルバイトより、宝くじ3枚を預かりました。お客様で宝くじを購入されたお客様から、支店長に「この宝くじ当たりますからお預けます」と本来預かってはよろしくない

「宝くじ」でした。当然警察

に遺失物届を出しておりますが、気を付けたいものです。

また来週のロータリー例会にて、会長・理事にご了解をいただき、宝くじの販売を行う予定です。

本来であれば、「宝くじの女神」を連れてくるどころですが、社員となります事をご了承下さい。

《会長挨拶要旨》

「日本でいちばん大切にしたい会社」

杉田 至弘 会長

経営学者で元法政大学教授の坂本光司さん、大井川町の出身ですのでご存知の方も多いと思いますが、この方が「日



本でいちばん大切にしたい会社」のタイトルで大小多くの会社を紹介しております。全国6000以上の企業を直接訪問してその経営を語っていますが、皆さま方にとって「いちばん大切にしたい会社」「日本にとって残したい会社」はどこですか？

勿論その第一は皆さまが起こした会社、経営している会社、

勤務している会社だと思えますが、客観的にこの会社はいい会社だ、この会社の経営哲学は是非続けて欲しい会社だと思いになる会社が1社か2社必ずあると思えます。

私の「一番残したい会社」は出版社の「岩波書店」です。ご存知の通りネット社会になり、新聞社、出版社にはエージェントの風が吹いています。

往時、全国で3万店あった書店、今は半分以下になりました。「岩波書店」は「大衆の講談社、知識人の岩波」と言われ、出版界を二分しておりました。その時から「岩波書店」は注文制をとり他の出版社とその販売体制を異にしておりましたので書店減の影響が少ないのかも知れません。しかし最近の出版不況はご存知の通りです。私が「残したい会社」の一番に挙げたのは「岩波書店」の経営姿勢です。「岩波書店」の広告出稿を静岡新聞に実現するには3年半掛かりました。

5人の宣伝部の人間が3ヶ月分の朝夕刊を隅々まで読み、合議のうえ出稿を決めるという他に例を見ない、検討会議を経ての実現でした。その時折衝した方は先に専務を経て退任されましたが「岩波は静岡新聞紙面を借りて、静岡県岩波読者にメッセージを贈る、その前提で価格、掲載面を提示して欲しい。交渉内容に納得すれば岩波書店がつぶれない限り契約を守る」というものでした。テレビ、新聞などの広告効果は「リーチとフリクエーション」が基本であるのはいうまでもありませんが契約を継続する、約束を守り続けるのは並大抵では出来ません。あれ以来もうすぐ50年になります。雨の日も風の日も、景気が良い時も悪い時も、新刊本があるときも無い時も毎月出稿を続けています。自動車、弱電、ビール各社など大型出稿する会社はたくさんありますが、こうし

て媒体を通じて読者に情報を贈り続ける「岩波書店」の経営姿勢は素晴らしいと常々思っています。

掲載面での約束は毎月最終日の第一面です。

明日 11 月 30 日静岡新聞第一面の「岩波書店」の広告を是非ご覧ください。

出版社も新聞社同様、企業の独立性を守るということで株式上場はしていませんが「大衆の講談社、知識人の岩波書店」と言われどなたも学生時代にその出版物に触れたと思います。

《クラブフォーラム（ロータリー財団）》 「ロータリーの奉仕活動について」



ロータリー財団委員長 曾根 真人 様

4年振りに訪問させていただきました。今回も皆様と一緒に財団について勉強したいと思います。本日は『ロータリー財団と奉仕活動』というテーマでお話しさせていただきます。

良く「ロータリー財団は分かり難い」という声を耳にします。

25年間地区のロータリー財団委員として、いろいろなクラブで卓話やお話し合いをしてきた中で、その最後の年に、何故分かり難いのかようやくその理由が分かってきました。

『ロータリーで何が一番大切なことですか』という質問に日本では『親睦』と答える人がほとんどです。しかし日本以外の国では間違いなく『奉仕』と答えます。なぜこのような違いになったのでしょうか。

ロータリーの目的の第1番目は、これまでは『奉仕の機会として、知り合いを広める』とありました。つまり自分の職業を通して社会に奉仕する人たちが集まって知り合いを広める、すなわち『親睦』が目的ようになっていました。

このことが世界のロータリーと大きく乖離していたため、2014年に『知り合いを広めることによって、奉仕の機会とする』と日本語訳が変更されました。原文は変わっていません。ここで日本のロータリーの軌道修正をしようとしたのです。すなわち、『親睦』から『奉仕』です。

その後ロータリーの憲法ともいえる規定審議会で職業という概念は薄れ、無職でも、家庭の主婦でも会員になれる。地域社会や国際社会で奉仕の意欲のある人は誰でも会員になることができるようになりました。

これまでのロータリーの考え方は『ロータリーは個人の職業を通して社会に奉仕する人たちの集まりで 集まって奉仕する団体ではない』とされてきましたがこれも変わりました。

2016-17年度のジョン・ジャームR I会長、次の年度のイアン・ライズブリー会長、そして本年度のバリー・ラシン会長は、明確に『ロータリーは奉仕する団体』と言い切っています。

さてロータリー財団は『世界で良いことをしよう』と発足しました。ロータリアンの奉仕活動を支援するための組織です。奉仕活動には資金が必要です。

その資金を皆様から集め(寄付)それを補助金という形で奉仕活動をしようとするクラブやロータリアンに配分する

ことがその使命です。

日本ではこれまでに『奉仕』という概念があまりありませんでしたので、資金も必要がなかったのです。そのため、資金を集めることだけに注目され、その先の資金の活用に関心が寄せられませんでした。この結果『ロータリー財団は金を集めるだけで何をやっているのか分からない』という声が聞かれるようになりました。

世界でロータリーの支援を必要としている人たちは沢山います。地域を超えてグローバル補助金を活用した奉仕活動に興味を持って頂ければ嬉しく思います。

静岡東ロータリークラブ

2019-2020年度 理事候補者

新聞 桂子	杉田 至弘	相原 雄治	新井 健一
森下 登志美	大村 幸代	長谷川 泰	長島 秀親
山下 勝央	由利 浩志	川崎 依子	望月 康弘

2019-2020年度 役員候補者

新聞 桂子	杉田 至弘	相原 雄治	新井 健一
森下 登志美	杉山 輝光	大村 幸代	
長谷川 泰	高田 雅司	神野 一成	

クラブ研修リーダー

望月 康弘 相原 雄治

《スマイル報告》

- 神野 一成 君 曾根さんのご来訪にスマイル。
長田 きみの君 お誕生日のお祝いありがとうございます。昔から12月5日生まれには良い人が多いと言いつづけていますが、なんと！林田さんも良い人だということが本日判明しました。
- 林田 尚翁 君 24回目の結婚記念日にシクラメンを送って頂き、布施明の「シクラメンのかおり」を思い出しました。来年いよいよ銀婚式。疲れを知らない子供のように、時が二人を追いこしていきま。ありがとうございました！
- 遠藤 正和 君 退会の挨拶です。平成28年2月に入会させて頂き、3年に満たないお付き合いでしたが、いろいろな方と楽しい時間を過ごさせていただきました。この度、新たな役割を仰せつかり、木曜日に東京出張が多くなることもあり、会社の後進とチェンジさせていただきます。現在の役割である社会奉仕活動と出席は、後進・加藤といいますが、彼にしっかり引き継いでいきます。東ロータリークラブの益々のご発展を祈念しております。ありがとうございました。感謝のスマイルです。

《出席報告》 次回掲載致します。

(会報作成脇永 勉)